

第14回海ごみサミット2016三重会議 国内招聘者プロフィール等

① 東京農工大学 教授／高田 秀重（たかだ・ひでしげ）

専門は環境中における人工化学物質の分布と輸送過程の解明。1998年からプラスチックと環境ホルモンの研究を開始し、2012年から、国連の海洋汚染専門家会議（GESAMP）のマイクロプラスチックのワーキンググループのメンバーとして、海洋プラスチック汚染の評価を行っている。

② 東京理科大学 教授／二瓶 泰雄（にへい・やすお）

専攻分野は 流体力学、水理学。研究分野は 環境水理学、防災水工学。「水」に関わる防災・環境問題を解決し、安全安心で環境に優しい社会を作るために必要な技術開発やまちづくりに取り組んでいる。

③ 人と組織と地球のための国際研究所 川北 秀人（かわきた ひでと）

国際青年交流 NGO「オペレーション・ローリー・ジャパン」の代表や国会議員の政策担当秘書などを務め、94年にIIHOE設立。NPOや社会責任志向の企業のマネジメント、市民・事業者・行政などが総力を挙げて地域を守り抜く協働・総働の基盤づくり、企業のみならず、NPOや自治体における社会責任（CSR・NSR・LGSR）への取り組み推進を支援している。

④ 九州大学大学院工学研究院 准教授／清野 聡子（せいの・さとこ）

専門分野は生態工学、海岸・河川的环境保全学、水生生物学。特に、漁場の開発と保全の調整、希少生物生息地の再生、地域住民や市民の沿岸管理への参加、水関係の環境計画や法制度、地域の知恵や科学を活かした海洋保護区について研究している。海岸漂着ごみの共同研究プロジェクトにも取り組んでいる。

⑤ 海の博物館 館長／石原 義剛（いしはら・よしかた）

3年の準備期間をおいて昭和46年に「海の博物館」を鳥羽市に開設。以後、館長を務めながら大学などで講演をこなす一方、子どもたちを対象にした海洋体験教育にも力を入れている。

⑥（調整中）水産庁漁場資源課 課長補佐／竹川 義彦（たけかわ よしひこ）

希少野生水産動植物の保護・生態系の保全・環境保全対策に対応する部門で、漁業の環境保全の調査研究、有害物質による水産動植物の汚染の調査研究などを行っている。

⑦ 三重大学人文学部 教授／朴 恵淑（ぱく・けいしゅく）

専門は環境地域学。主に地球温暖化問題と大気汚染・酸性雨問題に詳しい。国連第13回気候変動枠組み条約締約国会議（COP13・パリ会議）に参加。「三重県環境県民会議」の代表も務めるほか、レジ袋無料配布の中止を行った、三重県伊勢市の「ええやんか、マイバック検討会」で座長を務める。

⑧ 日本プラスチック工業連盟／岸村 小太郎（きしむら・こたろう）

プラスチック工業に関わる団体および企業を会員とする業界団体で、プラスチック業界、なかでもプラスチック加工業界に求められている重要課題の解決のために活動しており、プラスチック容器包装の機能と環境配慮に関する提言を行っている。

⑨ 国土交通省 水管理・国土保全局 河川環境課 河川環境保全調整官／堂園 俊多（どうぞの・しゅんた）

河川等の良好な自然環境の保全・復元、人と河川との豊かな触れ合いの確保、水環境の改善等を担っている。

⑩ 全国川ごみネットワーク 事務局／伊藤 浩子（いとう・ひろこ）

ごみの無い美しい海や川を取り戻すことを目指し、全国の河川・海洋環境保全に取り組む団体、個人が連携して、情報共有と課題解決に向けた対策と継続的な取り組みを進めるために設立されたネットワーク団体。

⑪ パタゴニア日本支社 環境プログラムディレクター／篠 健司（しの・けんじ）

アメリカのアウトドア用の衣類や用具の製造販売を行うメーカーで、環境に配慮する商品で知られている。環境問題に取り組む市民グループの助成などの支援活動を行っている。

⑫ 横浜ゴム株式会社三重工場 環境管理事務局 事務局長／大見 勝春（おおみ・かつはる）

工場のCSR活動として、「千年の杜プロジェクト」「企業の森」での活動を通し森の再生や水源の確保、市内勢田川の清掃、桧尻川・大湊海岸・工場内ビオトープでの清掃活動及び生物多様性保全活動を行うとともに、小中学校への出前授業や環境イベントでのブース出展等の環境保全活動を実施している。

⑬ 22世紀奈佐の浜プロジェクト委員会 事務局長／森 一知（もり・かずとも）

伊勢湾流域の漂着ごみの問題に対し、東海地域の環境団体が協力して行動するプロジェクト。伊勢湾流域を発生源とする漂着ごみの多くが押し寄せる答志島で、「100年後に奈佐の浜の漂着ごみ0」を目標にごみ拾いや流木を減らすための森林整備に取り組んでいる。

⑭ 鳥羽磯部漁業協同組合桃取町支所 理事／小浦 嘉門（こうら・かもん）

漁師として島の漁業にたずさわる一方、近年は、伊勢湾流域を発生源とする漂着ごみの問題の改善に取り組んでいる。100年後に答志島のごみゼロを目指す「22世紀奈佐の浜プロジェクト」では委員長を務め、海岸清掃のイベントや講演活動を通して環境保全の重要性を訴えている。